



13
3269
1



かかへば。それほのあはれをい
す。て。かうやうな怪談を集む。是
さうかう。唯母とむさ。海を船
小をう。と。や。由。と。に。君子のあ
あ。と。い。ふ。あ。を。あ。れ。ど。も。又。も。
う。あ。い。ふ。う。心。理。を。説。く。愚。蒙。
と。み。ら。び。く。ハ。及。く。奇。怪。神。異。の

感。趣。一。を。す。と。い。ふ。と。い。は。世。の。児。女
れ。等。こ。の。書。に。感。あ。り。て。神。仙。意
報。の。じ。か。う。う。う。と。い。は。信。じ。
君。父。忠。孝。の。は。と。い。は。を。い。ま
つ。と。の。最。も。の。あ。い。ひ。を。い。は。い
さ。い。の。い。戒。一。免。す。べ。く。を。あ
ら。い。免。身。成。け。く。む。媒。や。せ。ハ

この書は...
なすらめや...

元禄乙亥の冬...

義端謹序



玉振菊池目錄

第一卷

序

養老...
法園司...

續經...

圖表...

依列...

才二卷

赤井強丸出仕作坊出吳よ逢る

轉背者知三世事

親子奇遇付秋田素姫姫の事

三浦蒸次郎討死付和尙道歌事

狐人化く貴狐吟神物成る事

才三卷

畜生塚

老蘇森給る夜行の事

澤井何某子足才家親高吳験事

松永彈正墮地獄事

才四卷

少年愛れ契里の事

岩船何某少子色一長法傳授の事

少年遊翰如珠

雲林院素平二條后出矣

松本主膳老難を脱付親敵

才五巻

川本黑河出矣評依二本先陣

山伏再生して然を報ずる

將軍義村公於藤付焼火奇瑞事

醍醐山白狼事

才六巻

山中の冷人付小山全園花繁の事

水精の教珠

馬牛れ懸報の事

三位國孝奇病の事

松尾与一郎是傳よ途燈塔見也





いそ

乾坤變化幾何論 如是我山萬木身
窮去投林何擇木 亦登元峯向市津

疎と下りるを是とのみかゝ儀の變化なりと好まへ
たさぬ能く君多智はしてあつて同解の才に富む
とまふゆへ秋のよきとてをくりにけむ相持
車にこそあつても思ふはさうさうさうさう
ことごとく教を授けしむらひんやあつて。教師の成
車ありぬんといふ。神のくまひ思ふとぞに志望の令
守あり君が先祖と云玉の神なり。守又庚申の
交ありといふありしや。教師の教を授けしむらひん

かちとさうさうのいひく教を授けしむらひん
ありとてこれ人相形ありとてさうさうのく性
有り。公清をよむとて公清の神なり。公清とて
たゞらに公清のよむとて公清の神なり。公清とて
又ありといふ一公顛倒格にさうさうのく公清とて
六藝の境よりさうさうのく公清の神なり。公清とて
情欲の境よりさうさうのく公清の神なり。公清とて
色なり。鳥啼さうさうの神と不浄を公清の神とて
色お小抱さうさうのく公清の神なり。公清とて
物云言口の徳ありん。さうさうのく公清の神なり。公清とて
あり。ありとて公清の神なり。公清の神なり。公清とて





新しきもの。或は家内同家中に舎持の父のふれも
 甚しうららるるは長と懐くしものなるに耳添り
 ちつとよ中同一人のつとを館よぬるをどろり女目
 飾りの月伽儀く同すもあゝぬくそねなりた。儀
 小室中旭のわたりとくくると光出せる。その光さへあそ
 ありくあり。人の容ぬ衣袋の紋爪さねぬの飾まで
 あざやうふらりせらる。あやしや徳亡のわいもあははぶの
 堀りづらまぬ。又あくと東のあせわらうしおああざ
 るとびとつあてふ十取半向よ本末七席とつらゆの
 門のうらに大なる桐の本何と。その本指よ三歳づらと
 か心懐おまきこの後のがくくうやと二つもち角は

概之くその考ふこと甚し。東のあふり一應は向ふり
尾とあり。定し細と桐の葉あふりのとく。砂礫標
松らとし物げふらなり。宗解とらうも腹を
らまさんすつてえー判懸あえー。やうあまの化あ
ぬが變ふこもあされあ細小見布をらとやわし。前
らうあバ化あらるああゆらと宗解よりを句。宗解あは
み態あはららと向あせは。他ぐやえ。二がうー。念は
そくそのもうむわとかく。光もほよせら。あやしと
やひいーうはらね中。るらあ光よやとね。他入ー
仙と。休と。づらくと。業をどとと。種ーと。肩小川。を
あ。被らうらりぬ。え。もい。守。冠。出ー。屋。浦。の。主人。せ。あ。は。

○大 龜 吞 入
山に魔法章於の術とまひけり。が。被。れ。せ。じ。て
す。ま。あ。く。折。山。ぬ。その。ゆ。う。う。ひ。お。ね。ほ。と。ど。あ。う。い。ち
家。内。の。燈。火。を。中。と。あ。ら。ま。又。ち。人。の。え。と。さ。う。生。腕
を。中。は。あ。何。あ。く。は。屋。鳴。天。物。孫。を。あ。う。女。を。孫
あ。れ。れ。ど。い。ー。ぐ。お。鬼。う。ま。う。境。を。う。と。あ。く。あ
お。煙。ま。づ。ま。り。せ。ら。と。あ。じ

伝民飯田の傍小民家とらつてと。境内。廣と。を。つ。あ。き。る。
ひ。う。ー。ま。と。何。あ。と。田。家。あ。ま。う。あ。何。う。と。その。あ。つ。ご。に。ち
ひ。う。り。ま。何。樹。本。ど。と。久。積。り。新。谷。穀。の。形。ふ。ま。た
吹。新。吸。く。田。と。よ。お。あ。り。ら。う。何。み。あ。り。あ。う。ら。に。此。の。の



あさひのほど。じう張人あり。敵をいよ。松花をりて
松花と刺きわはる。その不腫あぶるをせは。松花をりて
の中みきり入。芋の茎とつらうそのけとわらうつき
まばその腫さう。あよ愈まは。張人はとるく人よ。はく松花
刺きわらふ芋の茎とつらう。治めとらう。や。虫類をね
毒ふあやと治らう。おはらう。こまよ。人うくすうく。治
るは。おらう。ん。あ。え。く。ひ。と。お。ら。り。愈。ま。は。は。は。く。人。を。や
感。一。ま。は。三。標。次。

玉うげ巻之一巻

